記録映画アーカイブ・プロジェクト第10回ワークショップ

「戦後史の切断面①ー過疎・開発・公害の記録」

2013年7月7日プログラム

総合司会: **丹羽美之**（東京大学）

13:35- 映画上映（約80分）

「忘れられた土地」（1958年、30分、監督：**野田眞吉**　撮影；高橋佑次　音楽；間宮芳生）
製作；東京フィルム
経済成長が始まった頃、地方には出稼ぎはあったが、まだ人口も多く過疎化はしていなかった。
撮影地は青森県東通村尻労集落、現在原子力発電所がある厳しい寒村の生活を描いている。
その後、東通村は1965年原発の誘致を村議会で決議することになる。
監督の野田眞吉（1912～1993年）は東宝文化映画部で亀井文夫の製作を担当、戦後1949年東宝争議でフリーになり、PR映画、テレビ等の監督を手がけながら、記録映画作家協会、映像芸術の会（会長黒木和雄）等を中心に活発な映画評論を展開し、若手の演出家を支援した。

「水俣の子は生きている」（1965年、25分、制作；牛山純一,演出：**土本典昭**、撮影；原田勲）
制作：日本テレビ
水俣病患者をまわるケースワーカー志望の女子短大生（西北ユミさん）の医療実習に同行して、公式確認から10年、早くも水俣病は地域から隠され、マスコミからも忘れ去られた患者の姿を描く。撮影で患者家族から激しい罵声を浴びたが、その後水俣の一連の作品を作る原点となった作品。
監督の土本典昭（1928～2008年）は1963年岩波映画を離れ、この頃、日本テレビで牛山純一のもとノンフィクション劇場（1962～68年）や自主制作「留学生チュアスイリン」等を同時平行で製作するなど、新しい道を歩み始めていた。映像芸術の会にも参加し、野田眞吉とも交流があった。

「汚水カルテ」（1977年、24分、制作；田村勝志、演出：**神馬亥佐雄**、撮影;成瀬慎一/増川勇治）
制作：岩波映画製作所・放送番組センター
放送番組センターが民放テレビ局に配給するために制作した「地球時代」シリーズ13本の１本。
新しく生まれた鹿島臨海コンビナートから排出される大量の汚染水は共同処理で基準値以下にされるが、その総量は問題にされていなかった。その矛盾を当時東大工学部助手の中西準子（環境リスク学）が指摘する。開発とは何か、開発は地方に何をもたらすのかを問うた作品。
監督の神馬亥佐雄（1932～2002年）はイタリアのチネチッタ撮影所に派遣留学されるなど、岩波映画の次世代を担う人材として期待された。黒木、土本ら若手が岩波映画を去る中で、岩波に長く留まり数多くの作品を手掛けた。映像芸術の会など外部との交流にも積極的に参加した。

15:00- 休憩

15:20- 制作者が語る

四宮鉄男（映像作家）元土本典昭監督の助監督

15:40- パネリスト報告

栗原彬（立教大学名誉教授）元水俣フォーラム代表

角田拓也（イェール大学大学院）「テレビ・ヴェリテの方へ：神馬亥佐雄と岩波テレビドキュメンタリ」

16:30- 全体討論

コーディネーター：**吉見俊哉**（東京大学）

17:30- 終了